

5 年 2 組

届け わたしの思い ～感謝の会 思いを形に～



あなたがうれしいと わたしもうれしい



3月12日、小麦・ソルガムの活動でお世話になった方への感謝の会を開催しました。今年度の小麦・ソルガムの活動では、本当に多くの方にお世話になり、わたしたちの活動をお支えいただきました。「感謝の気持ちを示すのに、どんなことができそうか」ということを子どもたちと考えた際には、「わたしたちのこれまでの活動のあゆみと成長を伝えること。そして、自分たちが調理した小麦・ソルガムの調理品を食べてもらうことではないか」という結論に至りました。そこで、3月12日の午後に行われる感謝の会に向けて、この日の午前中に調理活動に取り組みました。「できたての調理品を食べてもらいたい」という思いからでした。午前中に調理を終えなければいけないというタイトな日程でしたが、子どもたちは、食べてもらう人のことを思い、それぞれが自分なりの思いをもって調理に臨んでいました。

Aさんは、ソルガム粉の難しい点である味やじゃりじゃりとした食感などが分からない

よう、製粉や調理を工夫し、自分の工夫や努力が食べた人に伝わるように、思いを込めて調理をしていました。製粉の過程では、できる限り、粒を細かくし、ふるいに丁寧に掛けて上質なソルガム粉を作りました。できあがった「ソルガムチョコケーキ」は、「本当に小麦粉ではなく、ソルガム粉を使っているのだろうか」と思うような見た目や味で、Aさんの思いが形となって表れていました。実際、「このソルガムのお菓子がすごくおいしい。本当によく工夫されている」と、お越しいただいた吉原さんがおっしゃった時には、「うんうん」と満面の笑みでうなずきながら喜ぶAさんの姿がありました。

わたしは、Aさんの喜ぶ姿を見て、うれしかったのと同時に、Aさんのこれまでのあゆみがそこには凝縮されていたように感じました。Aさんは、これまで、ソルガムの未来への可能性を感じながらも、なかなかソルガムが世の中に広がっていなかったり、加工や味の問題で食としての扱いが難しかったりする現状を学んできました。そんな中、吉原さんと出会い、自分でソルガムを育て、そのソルガムで商品開発をしたり、ソルガムの実を出会った人に渡していたりと、ソルガムを普及させようと懸命に努力している方がいることもまた、Aさんは学んできたのです。「わたしたちにも吉原さんのように、ソルガムのよさを伝えられないだろうか」。そんな思いがAさんの原動力になっていた気がします。だから、吉原さんとうして感謝の会で再会する時には、Aさんは、「わたしたちも同じようにがんばっていますよ」という本気の思いを伝えたかったのではないかと思います。自分たちのつくったチョコケーキに込めた努力や工夫、そこから伝わる「わたしの思い」が吉原さんに伝わったと感じたからこそ、Aさんの喜ぶ姿があったのだと思います。言葉では言い表せない、つくった（伝える）人、それを食べた（受けとった）人の中でしか分かり合えない世界がそこにはあったように思いました。





Bさんは、早めに調理の活動終わらせると、空いた時間で感謝の会の進行計画を考えていました。どんな会にしようか考える中で、「入場の時はアーチを使おう」と友達に声をかけたり、「発表の時は、こっちの向きの方がいいかな」などと、全体の動きを綿密に考えたりするなど、6年生に感謝する会の時に培ったノウハウを存分に活かしている姿がありました。Cさんもまた、空いた時間を使い、会場の飾り付けや会場作りに取り組み、素敵な会場を作り上げていました。

感謝の会ではお世話になった6名の方がお越し下さいました。子どもたちは、久しぶりに再会した方の顔を見る中で、これまでの1年

間の自分の歩みを振り返り、自分の成長を感じているようでした。平成農園の中澤さんは、子どもたちが、自分の学んだことや成長したことについて語っている場面で、大きく頷きながら聞いており、子どもたちの成長を喜んでいただいているようでした。また、販売許可を持っていることを中澤さんは知らなかったのですが、子どもたちが作った調理品を食べると、「これなら保健所で許可をもらえば販売ができる」とおっしゃってくださり、子どもたちもうれしそうな表情を浮かべていました。信州大学工学部の天野先生からは、「自分たちで体験してきたこと、実際にやってみたことがとても重要で、今の時代、情報ならすぐに手に入る。でも、それが本当のことか、実際はどうなのかということを自分の体験として感じるのがとても大事なんだ」とメッセージを下さいました。本物に触れ、本当のことを追究してきたわたしたちの活動を価値付けていただいたようにも思いました。吉原さんは、事前に本校のホームページにある学級の歩みの記事を読んできてくださっており、感謝の会での発表と重ねて聞いたことで、「みなさんの活動が本当にすごい。こうやってソルガムのことを考えてくれているのがうれしい」とお話をして下さいました。自分が調理したものや一生懸命活動してきたことが、自分以外の方にも喜んでもらえる、そのことの尊さを感じることができた感謝の会だったのかなと思いました。



司会進行を中心になって計画したBさんは、お世話になった方の見送りを最後の最後まで行っていました。お互いに出会えたこと、共に活動できたことを喜び合いながら、名残惜しそうにお別れをする姿が印象に残りました。帰り際、株式会社コヤマの小出さんの方から、「茎・葉の収穫をしてもらえれば、バイオブリケット燃料として買い取ります」とおっしゃっていただきました。さっそく、感謝の会から2日後、今年度最後のソルガムの活動、茎・葉の収穫を行いました。茎・葉の収穫をしながら、子どもたちからは、新たな思いが生まれているようでした。耕作放棄地のことを気にしているDさんは、「また、来年も畑を借りて、何か作ろうよ」と話していました。

Eさん、Fさんは、収穫した茎の中身を割き、中から甘い匂いがすると、「なんか甘い匂いがするんだけど」と、ソルガムの新しい可能性に目を向けていました。畑で活動をし出せば、最後の一瞬まで、子どもたちの中に問いや願いが生まれてくるようでした。

今までお世話になった人たちに、感謝の気持ちを込めて、感謝の会を開きました。ご都合で来れなかった方もいたけれど、(株)コヤマさん・吉原さん・天野さん・平成農園さん・塚田さんがお忙しい中来て下さいました！感謝の会では、5年2組の今までの1年間のあゆみを発表しました。そして、わたしたちが作った小麦・ソルガム料理を食べてもらいました。わたしは、小麦粉でクッキーを作りました。今年で最後の料理でした。4年生から学んできたのを活かして、本気のクッキーを作りました。生焼けて何回も焼いていたけど、「このクッキー自分的に味はいい。見た目は…」という感じだったけれど、自信はめちゃめちゃありました。みなさんから、「5年2組が作った料理おいしい」と言ってくれたので、とてもうれしかったです。中澤さんとかが喜んでくださっていて、「楽しかった」とも言ってくれて、「本当にわたしたち、がんばったなあ～」とちょっとだけ感動しています。(Gさんのふりかえり)

昨年度も自分たちが作ったパンを食べてもらう機会はありました。ですが、なかなか目の前で食べてもらい、感想を聞く機会がなかったように思います。今回、お世話になった方に目の前で食べていただいたことで、食べた人が喜んで自分が自分の喜びにもなること、これまでの自分のがんばりを感じられることになるのだと感じさせてもらいました。それはきっと、「あなたがうれしいと わたしもうれしい」ってことなんじゃないかなと思っています。